

AMOENITATUM
EXOTICARUM
POLITICO-PHYSICO-
MEDICARUM
FASCICULI V,
Quibus continentur
VARÆ RELATIONES, OBSERVATIONES
& DESCRIPTIONES
RERUM PERSICARUM
&
ULTERIORIS ASIÆ,
multâ attentione, in peregrinationibus per universum Orientem, collectæ,
AUCTORE
ENGELBERTO KÆMPFERO, D.



LEMGOVIÆ,
Typis & Impensis HENRICI WILHELMI MEYERÏ, Aula-Lippicæ Typographi, 1712.

ケンペル『廻国奇観』標題紙（レムゴ、1712年刊）

ドイツのハンザ都市レムゴ生まれのケンペルは、スウェーデンの使節団員としてペルシア帝国に2年ほど滞在した。その後、東インド会社に外科医として就職し、しばらくインドネシアに滞在した後に、日本へと渡り、2回江戸参府に同行した。帰国後、ケンペルはフリードリヒ・アドルフ伯爵の侍医となっているが、アジア滞在中に取ったノートをもととしてまとめる時間はあまりなかったようである。唯一、生前に出版された本が『廻国奇観』である。本書は、主にペルシアについての研究をまとめたものであるが、日本については、和紙の生産や茶、鍼灸および、凡そ300種類の植物についての図と記述があり、これら日本の植物の多くを初めてヨーロッパに紹介している。

日文研所蔵外書（解説：フレデリック・クレインズ准教授）